

B：宮城県コース

伊貝 仁子（2002・文）

天気に恵まれた松島泊のコースは、自己紹介から始まり、大半の人がもっと早く現地にきて、何か出来ることをしたかったと言われました。私もその一人です。その同じ思いの人達とのツアーは、どこに行っても、気持ちの通じる仲間みたいで大変居心地のいい空間でした。

仙台の街も、集合の前にどこという事なく歩きましたが、震災の面影はまるで無いような雰囲気でした。仙台の街だけを考えると、1年半以上過ぎたことで、見事に立ち直っているように見えて、とても嬉しかったです。松島も、沢山の島と松の木が、津波を和らげてくれたようで、船から見た島々はくずれた様子もなく、日の光に照らされて、とても輝いて見えました。

ところが、すっきりと美しく見える名取と石巻は、建っていた家々が流されて何も無くなった所。それは想像しえない家が有ったとは思えない広さで続いていました。南三陸町では被災地町おこし市場で買物をさせていただきましたが、ボランティアの人も沢山来られてるようで、ずっと続けている活動にとっても温かいものを感じました。ボランティアの詰め所もあって、受け入れる体制が出来ていることに嬉しさと安心を覚えました。ガイドさんの話の中にも、沢山の人がボランティアで訪れているのを教えられました。

見事に復興された同窓の佐々木さんや木村さんの元気な姿も見られて嬉しかったです。とっても気を遣って下さって、こちらの方が励まされたような気がします。

現地を見させていただいたのに、まだ具体的に何の支援をしようとか判りませんが、10年はかかる被災者の方達の立ち直りに、見させていただいた事で、これからも、繋がっていく心構えみたいなものが出来た気がしています。参加させていただいて、ありがとうございました。